

Levi-Civita の記号の縮約公式の幾何学的解釈

北野 正雄

京都大学大学院工学研究科
615-8510 京都市西京区京都大学桂

2006 年 11 月 19 日

Levi-Civita の記号の縮約公式

$$\epsilon_{ijk}\epsilon_{ilm} = \delta_{jl}\delta_{km} - \delta_{jm}\delta_{kl} \quad (1)$$

は添字記法を用いたベクトル解析で中心的な役割を果たしている。いろいろな証明が考えられているが、ここでは幾何学的なイメージを重視した導出を紹介する。

$j = k$ の場合は両辺は 0 になる。 $l = m$ の場合も同じである。したがって、 $j \neq k$ かつ $l \neq m$ の場合のみ考えればよい。

任意の正規直交基底 $(\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3)$ を用いて $\epsilon_{ijk} = \mathbf{e}_i \cdot (\mathbf{e}_j \times \mathbf{e}_k) = (\mathbf{e}_j \times \mathbf{e}_k)_i$ と表せるので、式 (1) の左辺は

$$\epsilon_{ijk}\epsilon_{ilm} = (\mathbf{e}_j \times \mathbf{e}_k)_i (\mathbf{e}_l \times \mathbf{e}_m)_i = (\mathbf{e}_j \times \mathbf{e}_k) \cdot (\mathbf{e}_l \times \mathbf{e}_m) \quad (2)$$

と表すことができる。ここで、

$$\mathbf{a} \equiv \mathbf{e}_j \times \mathbf{e}_k, \quad \mathbf{b} \equiv \mathbf{e}_l \times \mathbf{e}_m, \quad (3)$$

と定義する。ベクトルの集合 $U = \{\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3, -\mathbf{e}_1, -\mathbf{e}_2, -\mathbf{e}_3\}$ を導入すると、 $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in U$ である。 U の各要素は $\mathbf{e}_p \times \mathbf{e}_q$ ($p, q = 1, 2, 3; p \neq q$) の形に一意に書ける。すなわち、対 (p, q) ($p \neq q$) と 1 対 1 の関係にある。また、 \mathbf{a} が (p, q) に対応しているとき、 (q, p) は $-\mathbf{a}$ に対応する。これらを考慮すると、式 (2) はさらに

$$(\mathbf{e}_j \times \mathbf{e}_k) \cdot (\mathbf{e}_l \times \mathbf{e}_m) = \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = \begin{cases} 1 & (\mathbf{a} = \mathbf{b}, \text{ すなわち, } j = l \text{ かつ } k = m) \\ -1 & (\mathbf{a} = -\mathbf{b}, \text{ すなわち, } j = m \text{ かつ } k = l) \\ 0 & (\text{その他}) \end{cases} \quad (4)$$

と表すことができる。1 番目のケースは $(j, k) = (l, m)$ の場合、2 番目のケースは $(j, k) = (m, l)$ の場合に相当する。 $(j \neq k \text{ かつ } l \neq m)$ を前提にすると、2 つのケースは排他的である。 $\delta_{jl}\delta_{km}$ は 1 番目のケースで 1、その他のケースでは 0 になる。同様に、 $\delta_{jm}\delta_{kl}$ は 2 番目のケースのみ 1、その他のケースでは 0 になる。これらを用いると、2 つのケースをまとめて

$$\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = 1 \times \delta_{jl}\delta_{km} + (-1) \times \delta_{jm}\delta_{kl} = \delta_{jl}\delta_{km} - \delta_{jm}\delta_{kl} \quad (5)$$

と表すことができ、右辺が得られる。

図で表すと以下のようになり、覚える必要がないほど簡単な公式であることが分る。

